

東北地方  
太平洋沖  
地震

震度6弱でライフライン寸断  
隣接する沿岸市への支援に全力

3月11日14時46分ごろ、三陸沖を震源に発生した「東北地方太平洋沖地震」は沿岸部で津波による多数の死者・行方不明者を出したのをはじめ、東日本の広い範囲で電気水道、通信などライフラインが寸断されるなど、甚大な被害を与えています。本市は人的被害は少なかったものの長期間にわたる停電、断水により約2700人が公共施設に避難したのをはじめ、ガソリン不足などにより生活に大きな不便を強いられています。また、本市は平泉町、藤沢町と連携し、多数の死者・行方不明者を出している陸前高田市、大船渡市、宮城県気仙沼市への支援に力を注いでいます。



1



2



3



6



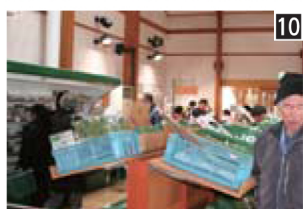
8



7



9



10



5



4

- 1 土砂崩れや落石により通行止めとなった市道岩ヶ崎川台線
- 2 給水所では自主防災組織などの地域団体が活躍
- 3 避難所の一つ、一関文化センターには多いときでおよそ600人が避難。ライフラインが途絶え余震が続く中、不安な夜を過ごしました
- 4 市内のガソリンスタンドはどこも大渋滞。給油まで数時間並ぶ光景が日常的に見られました
- 5 全国各地から救援物資が到着。いわて南牛を取り扱う東京の食肉加工・卸会社からはレトルト食品などが届けられました
- 6 市役所本庁内に市災害対策本部を設置。関係機関と連携し情報収集と復旧に努めています
- 7 沿岸3市へ支援物資を届ける車両に積み込む様子
- 8 公共施設にも大きな被害。萩荘公民館は外壁が大きく崩落
- 9 避難所の運営を支えたボランティア。食事の準備で大きな力に
- 10 物流がストップする中、すぐに地元産の野菜や加工品を販売した直売所。道の駅かわさきは地震翌日の12日から営業を再開。停電復旧後も客足が途絶えません

地震は三陸沖を震源とし、マグニチュードは9.0と国内の観測史上では最大となる巨大地震。市内では震度6弱を記録しました。

市は15時、勝部市長を本部長とする災害対策本部および支部を設置し、被害の情報収集に努めるとともに被災者への対応や断水地域への給水活動、避難所の開設などにあたりました。

【ライフライン】  
電気は、送電が停止されたことから地震発生と同時に市内全域で停電。13日夕方から一部通電が開始され、15日に全域が復旧しました。

水道は、地震直後に市内ほとんどの地域で断水。広報車

で給水所を周知しながら最大で36カ所に給水所を設け、復旧に努めました。簡易水道を含めた全世帯の復旧は24日となりました。

各種通信にも大きな影響が出ました。固定電話、携帯電話ともつながりにくい状況になりました。

道路は一時市道51カ所、県道3カ所、国道3カ所が通行止め。25日現在でも市道30カ所、県道1カ所、国道2カ所の通行止めが継続しています。

公共交通機関もストップ。高速バス、路線バスは徐々に復旧。鉄道は、東北本線一ノ関盛岡間が20日から運行。東北新幹線、東北本線仙台方面、大船渡線は復旧の見通しが立つ

【医療】  
県立大東病院は、施設の損傷などにより一時使用不能に。入院患者は全員千厩病院に転院し、22日から再来患者の診察と薬処方のみを再開しています。また、14日から19日まで、小児・成人夜間救急当番医に代わり、市役所本庁内に夜間救護所を開設しました。

【避難所】  
家屋の被害、停電や断水のため、多数の市民が避難所で過ごしました。東北新幹線の利用客約200人も一関文化センターに身を寄せました。

13日には44カ所に2701人が避難。電気や水道の復旧とともに避難者は減る一方で、陸前高田市や気仙沼市などの避難者も受け入れています。

25日現在、4カ所で62人が避難生活を送っています。

【市民への情報提供】  
地震による停電で市ホームページのサーバーが停止したものの、復旧した14日から市は給水所、ごみ収集など身近な情報をホームページで即時提供。そのほか各報道機関に情報を提供。16日からはA4版のチラシ「一関市災害対策本部からのお知らせ」を10日間毎日発行し、給水所での配布や避難所での掲示などを行いました。

【物資の不足】  
東北地方に燃料を供給していた太平洋沿岸の製油所が津波により破壊され、ガソリン、灯油など燃料の補給が途絶えたことから、地震直後から燃料が極端に不足。市は14日16

【沿岸市への支援】  
市は市内の復旧に努めると同時に、より被害が著しかった